

らいさま

＜特集＞ 共生社会を目指して！

栃木県下野市は、雷とともに夕立が多い地域です。雷は昔から「雷(らい)さま」と呼ばれ、豊かな作物を育てる恵みの雨をもたらす存在としてあがめられてきました。雨降って地固まると言われるように、この情報紙が、豊かな地域づくりにつながるように「らいさま」と名付けました。

下野市自治基本条例とは…

私たち市民にとって、よりよいまちづくりを進めるための基本的な考え方、ルールを定めた自治基本条例(平成26年4月制定)は、特別な規制を設けるものではなく、日々さまざまな活動を行っていく中で、よりよい下野市のまちづくりに役立てていこうとするものです。

P.2～P.4

ミニ座談会

一般社団法人Bridge代表理事 山口氏
茂木グリーンファーム代表 茂木氏
社会福祉法人はくつる会理事長 諏訪氏

P.5

栃木県が目指すユニバーサル農業
共生社会とちぎづくり表彰

令和2年 2月
VOL.11



平成28年4月に障害者差別解消法がスタートして、共生社会に向けた動きが活発になってきているんだ。これまでに取材した人を繋ぐ意味で、「共生社会」や「ユニバーサル農業」(P5参照)をテーマとして、ミニ座談会を開催したんだ。一般社団法人Bridge代表理事の山口理貴氏、茂木グリーンファーム代表の茂木正行氏、社会福祉法人はくつる会理事長の諏訪守氏が参加してくれたよ。ここから新たに何かが生まれまれたらいいな。



写真

下毛野朝臣古麻呂
(しもつけぬのあそんこまろ)
(大宝律令の選定に携わった
下野市ゆかりの人物)



ミニ座談会



座談会の 主な参加者紹介



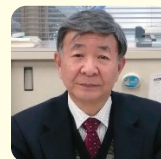
山口 理貴 氏

(一社) Bridge (ブリッジ) 代表理事、障がい者雇用コンサルティングのほか、古民家TSUBAKI YAのスペース運営・管理が主な業務 らいさま第6号参照



茂木 正行 氏

茂木グリーンファーム代表 各種野菜を生産 園芸福祉士の資格を持ち 独自の活動も行っている らいさま第10号参照



諏訪 守 氏

社会福祉法人はくつる会 理事長 農業と福祉をつなぐ事業を積極的に推進している

山口 わたしは、障がい者雇用をどのように進めたらよいか分らない法人の担当者にアドバイスをしたり、企業で働いている方の相談にもものっている。障がい者が社会に出る時に障がいを前面に出す必要はないというのが考え方の基本。例えば、趣味で絵を書いている知的障がいのある方は、障がい者としてではなく、一作家として社会に出てほしいと思う。下古山のかかしまつりに出品した「目玉おやじ」は病院デイケアや福祉施設のメンバーで作ったもの。障がい者の作品ということではなく、普通の出品者という扱いで社会と接するというのを軸にしたい。

茂木 私は脱サラ後、就農しました。家族が自宅周辺にハーブ畑をつくり、障がい施設の利用者とラベンダーの花摘みなどの活動をしていたこともあり、農業と福祉に興味がありました。その後、2001年頃、東京農業大学の当時の学長であった進士先生が「花や野菜を育てて、みんな幸せに

なろう!」をキャッチフレーズにした園芸福祉普及協会を立ち上げられ、私も研修や講習会に参加し活動を始めました。また、イギリスやドイツでの海外研修や各地での活動に参加し勉強する機会があり、協会の認定講師などさせていただきました。現在は同じく協会の講習会を経て資格を取った仲間と「園芸福祉とちぎ」を立ち上げ、県主催のとちぎグリーンフェスタの協賛団体として園芸福祉の花壇づくりなどに参加させていただいています。今回のテーマの「共生社会」や「ユニバーサル農業」はこれまでの活動が活かせる場として、私も今後の農業経営に活かせるのではと思っています。ぜひ、進めていければと思いますね。

ミニ座談会の模様➡
会場協力(一社)Bridge



つながッテルね!

条例4条

(自治の基本理念)

市民が主役のまちづくりを推進することを基本理念とする。



茂木 ビニールハウスの中は花の匂いがこもるから、視覚障がい者の方は歩くだけで世界を感知できる。植物と対話したり、まいた種の発芽を気にしたり、今まで外に出なかった人が農業を楽しむことができる。

山口 福祉というと、障がい者や高齢者のためのものという限定的な捉え方をされることが多いが、市民全体に寄与するものと思ってます。

茂木 例えば、背の低い人が踏み台などを使い高い所のものを取るように、不便のある人がその人にあった道具を使い作業をするのと一緒に、考え方で垣根が低くなり理解し合えますよね。

山口 本当にそう思う。

茂木 ユニバーサル農業は実際にはいろいろ課題はあると思いますが、多彩な農作業の種類を可能な方法で参加し、農家と障害のある方などが、お互いを理解し合って進めていくことが大切だと思いますね。

目玉おやじ。製作者は病院デイケアや福祉施設のメンバー。一度、下古山のかかしまつりに出品されたあと、化粧直しを行い、シェアスペース夜明け前のハロウィーンイベントに展示されたんだ。



山口 行政の中では農福連携という用語が使われることが多いです。障がい者のために仕事をつくるのではなく、個々人が力を発揮しやすい作業を農作業の中から見つけていく仕組みができれば良い。試行錯誤がいろいろあるでしょうが、農作業を依頼する側と一緒に考えていけたら良いと思う。

茂木 そうですね。時間がかかっても良いから、楽しみながらやって農業への取組みをどんどん進めたい。

山口 ユニバーサル農業は障がい者も含めて一緒に進めているイメージがあります。それが進むことは福祉の成長と言って良いのではないのでしょうか。



(一社)bridgeのアドバイスにより作品が商品化されたんだよ(写真左からTシャツ、手ぬぐい)。作家には福祉施設のメンバーも。



つながッテルね!
条例13条

(市民の責務) 抜粋

第13条 市民は、次に掲げる責務を有するものとする。

(2) 人権を尊重し、他の個人としての尊厳を侵さないこと。

諏訪 はくつる会には、市内の工業団地の優良企業に体験入社をさせてもらい作業の様子を見てもらうことで、就職につながった利用者がいたり、母親を車に乗せてあげたい一心で知的障がい乗り越えて運転免許証を取得した利用者がいる。

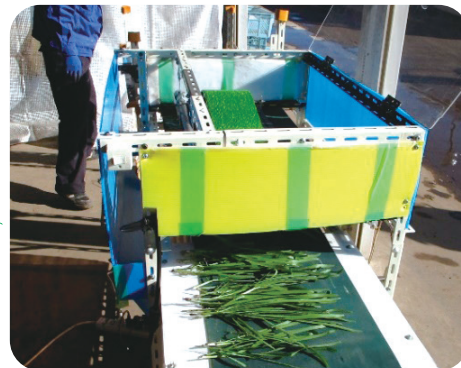
「ふくしまあじさい会」という東日本大震災の被災者とお付き合いがありますが、彼らはいつまでも被災者扱いされることは望んでいません。もともと持っている能力で前へ踏み出していく姿が見られる。自然だなと思う。障がい者の雇用についても、ある部分だけ集中して仕事ができる人ならたくさん仕事がある、とロケット部品をつくる企業から言われたことがある。また、障がい者の作業は、採算をとらなければだめと言われている試行している。



計量するための前処理を機械化したおかげで、生産性が今までの2倍になったんだ。



市の補助事業を活用して、野菜を洗浄乾燥するための機械を小山工業高等専門学校と生産農家が共同開発したんだよ。



今年度表彰された企業から受注した箱折作業もやっているんだ。集中してしっかりと折っているね。



諏訪 小山高専と連携して土等を洗浄する機械を開発してもらって整頓結束の作業を請け負っている。他にカブの販売、干し大根をスーパー等へ納入して事業化を進めている。

山口 企業への就職は受け入れられたんですか。

諏訪 腫物にさわる感じ、企業側も経験がないが受け入れてくれた。

山口 障がいだけを知ってもらうのではなく、その人の個人を知っていただくのが大事だと思う。

諏訪 障がいについての考え方は変わってきていて、今は外に出そうという風潮になってきた。就職を希望している人は多いが、それに比べられるだけの受け入れ企業が少ないのが現状。本人や家族の希望を満たすのは困難です。



つながッテルね!
条例34条

(人材及び組織の育成)

市民、議会及び市は、市民が主役のまちづくりを推進するため、自発的なまちづくりの担い手及び自律的なまちづくり組織が育つよう支援を行い、その学習環境及び拠点の整備に努めるものとする。

栃木県が目指すユニバーサル農業

～食と農の多様な効用の促進～

ユニバーサル農業について、
下都賀農業振興事務所に
伺いました



栃木県では障がい者等の農業分野における就労機会の拡大を進めています。具体的には、生産現場でのバリアフリー化や安全確保のための作業環境の改善、実践農場の見学会、農業者と福祉施設を結びつけるマッチング事業、農作業を試行的に体験できるインターンシップなどの制度により推進を図っています。下都賀地方は県内でも取組が進んでいる地域です。

ユニバーサル農業とは、年齢や性別、障がいの有無などに関わらず、誰もが参加したり実践できる「農」の取組を指します。「農」は癒しやリハビリテーション等につながる福祉力を持っているため、農業分野と福祉分野の連携が期待されています。

■ 問合せ先 栃木県下都賀農業振興事務所 企画振興室 ☎ 0282-23-3425

下野市の ユニバーサル 農業への 補助制度

- ◆ 内容 障害者等の農作業における衛生、安全、作業性の確保のための施設等の整備に要する経費の補助
- ◆ 補助率 整備費の 1/2 以内 上限 25 万円
- ◆ 対象 生産者または営農集団等生産組織及び生産部会
- ◆ 問合せ先 下野市農政課 ☎0285-32-8906

下野市は平成30年度からユニバーサル農業への補助制度を始めたよ。これからも利用が増えるといいわね。



取組の目

令和元年度共生社会とちぎづくり表彰

～本市2社が受賞～

栃木県では障害の有無に関わらず誰もが共に支え合う社会の実現のため、障害者差別解消推進条例第10条に基づき、県民の模範となる取組を行ったと認められる事業者を表彰しています。今年度、本市では、次の2社が受賞しました。

共生社会
とちぎづくり表彰は、
平成29年度から
はじまったよ。



1 障がい者差別解消部門

一般社団法人 Bridge

受賞理由 共生社会への理念について普及啓発に貢献したため。障害の有無にかかわらず、誰でも参加出来るコミュニティスペースを整備し、それを活用し芸術祭やトークショーを開催した。

2 障がい者の工賃向上部門

有限会社せきぐち

受賞理由 障がい者施設の受注機会の確保や工賃向上に貢献したため。委託先の作業能力を考慮し、菓子箱折りの業務を通年発注。

■ 問合せ先 栃木県障害福祉課 企画推進担当 ☎ 028-623-3491



つながッテルね! 条例15条

(事業者の権利及び責務)

第15条 事業者は、地域社会を構成する一員として、社会的責任を認識し、自然環境及び市民生活に配慮した事業活動を推進するとともに、公益的な活動への積極的な参加及び地域社会づくりに寄与するものとする。



NPO法人
**つくばアグリチャレンジ
ごきげんファーム**
農場長 **伊藤 文弥 氏**



ユニバーサル農業に
取り組んでいる方に
伺いました



これからユニバーサル農業を始められる方へ

私は、茨城県つくば市で障害のある人たちが働く農場「ごきげんファーム」を運営しています。私が21歳の時にこの事業を始めようと決めてから10年が経ちました。ごきげんファームは就労継続支援B型という福祉サービスを使っています。今は約100名の障害のある人たちと一緒に、有機野菜セットの配達、お米の栽培、平飼い自然養鶏、レストランなどの事業に取り組んでいます。

ユニバーサル農業の魅力はたくさんあります。そのうちの一つは、たくさんの方が参加できることです。障害のある

なしだけではもちろんなく、0歳から100歳までの方が同じことを楽しむことができます。いろんなバックグラウンドのある人たちが集まり、一緒に作業をすることができます。そういった繋がりの中で、お互いに学び合い、支えあっていくような関係性ができることが、少しずつ豊かな地域に繋がっていくんじゃないかと思っています。

もちろん大変なこともあります。私がさせてもらっているこの仕事は本当にやりがいがあります。農業の価値が最大限に感じられる地域を、障害のある人たちと一緒に作っていけるように頑張っていきます。

ら・い・さ・ま NEWS

本市にあらたなローカルメディアが誕生しました。令和元年12月20日(金)、地域FMラジオ局「FMゆうがお」の開局です。このラジオは下野市を中心にお手持ちのラジオやカーステレオでどなたでもお聴きいただけます。お聴きいただくには、次のような方法があります。

87.9
MHz

FM ゆうがお の 聴き方

①ラジオで聴く

お手持ちのラジオで聴くことができます。FM放送が受信できるラジオやコンポ、ステレオ(チューナー)、カーラジオなどで、周波数を87.9MHz(メガヘルツ)に合わせます。

②パソコンで聴く

FMゆうがおの公式ウェブサイト(<http://fmyugao879.jp>)にアクセス、表示に従ってクリックするとお聴きいただけます。

③スマートフォンで聴く

専用アプリ「FM++(エフエム プラプラ)」をインストールするとお聴きいただけます。

※詳細は広報しもつけ令和元年12月号を参照

知っていますか？

栃木県のとびやさいい
まちづくり条例



適合証

栃木県では、平成11年10月14日に「ひとにやさしいまちづくり条例」を公布し、バリアフリー化の促進などを始めとする「ひとにやさしいまちづくり」の推進に取り組んでいます。条例に適合する建築物などに対して適合証を交付し、普及啓発に努めています。

●適合マークの意図●

男女の健康者と障害者が手をつなぎ、助け合っている様子を表す。白い線は地平線、お互いに男女も差別されない社会・地域の同じ位置に立っていることを表す。青い空は、澄んだ心とまるい地球をイメージ。(栃木県HPより引用)

下野市役所も適合証の交付をうけており、庁舎1階の展示コーナーに設置しています。

編集後記



共生社会とは障がいの有無に関わらず誰もが共に支え合う社会です。今回の取材を通じて感じたことですが、共生社会の実現を目指して、色々な立場で熱く取り組んでいる方々の話を聞かせていただき、共に生きるとは、人はそれぞれの存在そのものに価値があり、その人に合った役割があるのだと再認識し、自治基本条例の根本である市民参加にはこのことが含まれると気付かされました。(SUWA)

【表紙】(福)はくつる会での計量結束前の作業風景